

●履修コースと履修モデル（経済学部経済学科）

経済学科では、経済学の学びがキャリア形成に役立つように教育トラックを採用しています。自分の希望や卒業後の進路に応じた系統的な学修・留学・資格取得ができるように、4つの教育トラックを設けています。

教育トラックごとに主な専門科目が明示されており、体系的に専門的な知識やスキルを習得します。実践的な能力まで引き上げるため、関連する資格試験や検定へのチャレンジを支援します。3年次春学期の「経済キャリア講座」で経済学の学びと学修成果を振り返り、今後の学修計画（卒業研究）やキャリア形成（就職活動）に備えます。

各トラックでは、次のような人材の育成を目的としています。みなさんは1年次秋に自分の将来を考え、希望の教育トラックを選択してください。

- トラック G グローバル人材・・・国際感覚豊かで、グローバルに活躍するビジネスパーソン
- トラック F ファイナンス・・・ファイナンスなどの実地的知識をもつ金融・財政のエキスパート
- トラック D DX 人材・・・ICT やデータを駆使し、仕事の効率化ができる即戦力人材
- トラック P 公共政策・・・各地域において政策立案・施行することができるエキスパート

トラック G. グローバル人材：国際感覚豊かで、グローバルに活躍するビジネスパーソン

私たちは経済のグローバル化が進む国際社会に生きています。とりわけ日本は貿易や資本取引を通じて世界各国と相互依存の関係にあり、日本経済で起こるさまざまな現象は世界経済との関連なしに語ることはできません。

トラック G は、多様な世界経済のあり方に問題意識をもち、国際感覚あふれた人材を養成するために、国際貿易や国際金融の理論・制度について深く学ぶことを推奨します。また、どのような歴史をたどって経済社会がグローバル化してきたのか（時間的視点－経済史）、また世界各国の経済社会はどのように異なるのか（空間的視点－比較経済）という点を理解することも大切です。そして、何より留学体験から国際理解を図ることが重要です。

グローバル企業、一般企業での国際部門、商社、海外に拠点を持つメーカーや企業、国際運輸・物流、旅行代理店などへの就職を考えている人に向いています。将来、広く世界を相手に仕事をしていきたいと考える人、時代と空間を越えて視野を広げ、経済社会の多様性を学びたい人に最適なトラックです。

このトラックでは、以下のような授業科目を中心に選択し、資格検定や留学を目指すでしょう。

学科展開科目	ミクロ経済学 1・2、マクロ経済学 1・2、国際経済学 1・2、資源・エネルギー政策、
学科関連科目	金融論 1・2、環境経済学、＜各国経済と歴史＞の領域科目群、国際理解 1～8
経済実務 1～3（資格）	TOEIC Listening&Reading 540 点以上、日本語検定 2 級以上

※「経済実務 1～3」で認定される資格の詳細は、「資格単位認定」項目を参照してください。

トラック F. ファイナンス：実際の知識をもつ金融・財政のエキスパート

ファイナンスとは、企業や個人、政府などの資金調達ならびにその管理を意味します。個人レベルでは年金や保険などを通じた生涯の生活設計や資産運用など、また企業における資金調達や資産運用など、さらに財政政策・金融政策といった政府の政策など、広範な領域にまたがります。

トラック F は、金融や財政の基礎理論とその制度的な枠組みを理解し、金融・財政政策について深く学ぶことを推奨します。また、金融リテラシーを身につけ、将来的に個人の生活設計や金融資産の管理ができる人材を育成します。実際的な応用力を養うために、市場の動向やリスク管理などについて「企業連携講座」などで扱います。

銀行・証券会社・保険会社・不動産会社といった金融業界への就職を考えている人に向いています。また、一般企業での会計・財務部門で活躍したい人、パーソナルファイナンスに興味関心がある人に最適なトラックです。

このトラックでは、以下のような授業科目を中心に選択し、資格検定を目指すといよいでしょう。

学科展開科目	ミクロ経済学 1・2、マクロ経済学 1・2、金融論 1・2、財政学 1・2、経済政策論、
学科関連科目	統計学、計量経済学、経済データ分析、社会保障論、経済法、企業連携講座 1・2
経済実務 1～3（資格）	一種証券外務員、ファイナンシャル・プランニング技能検定 2 級以上、 日本商工会議所簿記検定 2 級以上、税理士試験、公認会計士試験

※「経済実務 1～3」で認定される資格の詳細は、「資格単位認定」項目を参照してください。

トラック D. DX 人材：IGT やデータを駆使し、仕事の効率化ができる即戦力人材

新型コロナのパンデミック以降、テレワークやオンライン会議などが定着し、IGT を駆使できる人材が求められています。また、経済活動に関するデータ量は飛躍的に増加し、分析ツールであるデータサイエンスのニーズも高まっています。どの分野でも、IGT 活用やデータ分析から従来の活動を見直すという DX (Digital Transformation) が注目されています。

トラック D は、経済関連データの背景を理解し、適切なデータ収集から相関関係・因果関係を分析する統計方法について深く学ぶことを推奨します。自分で分析した計算結果を見て、経済学の知識に基づく合理的な判断ができる人材を育成します。また、技術革新による経済発展を理解し、実際のビジネスでも新しいツールで業務革新の可能性を探る姿勢を身につけます。

IT 専門職として情報サービス業、大企業の IT 部門で活躍したい人に向いています。また、一般企業で販売・製造部門などでも情報活用による業務改善、収益向上に寄与したい人に最適なトラックです。

このトラックでは、以下のような授業科目を中心に選択し、資格検定を目指すといよいでしょう。

学科展開科目	ミクロ経済学 1・2、マクロ経済学 1・2、統計学、計量経済学、経済データ分析、
学科関連科目	経済数学、日本経済論、企業連携講座 1・2、企業連携演習 1a~3b
経済実務 1～3（資格）	IT パスポート資格取得、日本商工会議所簿記検定 2 級以上、 秘書技能検定 2 級以上、中小企業診断士試験

※「経済実務 1～3」で認定される資格の詳細は、「資格単位認定」項目を参照してください。

トラック P. 公共政策：各地域において政策立案・施行することができるエキスパート

価値観の多様化が進み、世代や地域でも大きく異なっています。地域経済にとって大切で必要なものを見極めること、またそれに応じた政策立案をすることは簡単ではありません。

トラック P は、市場経済の有効性と限界を理解したうえで、公的部門の役割について深く学ぶことを推奨します。また、現実の課題に対応するためには、経済学だけではなく、法律や政治の視点が重要になりますので、学科展開科目の〈法制度と公共政策〉の領域にある科目の履修を推奨します。国や地域での課題を発見し、経済学的アプローチから解決への提案ができる人材の育成を目指します。

行政職の国家・地方公務員、公益事業や公共団体などへの就職を考えている人に向いています。将来、地域が抱える課題を発見し、経済政策の立案などを学びます。地域に貢献する仕事や社会活動に携わりたい人に最適なトラックです。

このトラックでは、以下のような授業科目を中心に選択し、資格検定を目指すといでしょう。

学科展開科目	ミクロ経済学 1・2、マクロ経済学 1・2、財政学 1・2、経済政策論、公共経済学、
学科関連科目	社会保障論、〈法制度と公共政策〉の領域科目群
経済実務 1～3（資格）	宅地建物取引士資格取得、行政書士資格取得、ERE（経済学検定試験）または ERE ミクロ・マクロ B+判定以上

※「経済実務 1～3」で認定される資格の詳細は、「資格単位認定」項目を参照してください。

● 学びの領域

学びの領域

卒業後の進路を意識した教育トラック制を導入。1年次秋に自分の将来を考え、学生は4つのなかから適した教育トラックを選びます。教育トラックごとに主な専門科目が明示されており、体系的に専門的な知識やスキルを修得します。実践的な能力まで引き上げるため、関連する資格試験や検定へのチャレンジを支援します。3年次春には学修成果を振り返り、今後の就活や卒業研究に備えます。

4つの教育トラック



DX人材

情報活用から業務改善・収益向上に寄与できる人材を目指します。社会変化、経済の進展を学び、適切なデータ収集・分析、経済学の知識に基づく合理的な判断でビジネス課題に取り組みます。



公共政策

国家・地方公務員、非営利団体などで活躍できる人材へ。市場経済の有効性と限界を学んだ上で、公的部門の役割の重要性を理解します。課題発見から、経済政策の立案を学びます。



グローバル人材

グローバル企業、商社、国際運輸、旅行代理店などで活躍できる人材を目指します。経済のグローバル化、資源・環境問題、貿易などを学び、国際感覚に優れた経済人を育成します。



ファイナンス

銀行・証券・保険・不動産などに加え、会計・財務部門で活躍できる人材を目指します。金融の仕組みから政策を学び、企業連携で金融の実際に触れながら、金融リテラシーを身につけます。

資格試験や検定へのチャレンジを支援